一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成 25 年度（2013 年度） 事業報告

1. 受託事業

［1］ 地域の映像文化を担う人材を育成する–映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ

（文化庁 平成 25 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業）

（1） 映像アートマネージャー養成講座～第 7 期シネマ・マネジメント・ワークショップ

開催期間：2013 年 7 月中旬～2014 年 3 月末（毎週開講）

共催：特定非営利活動法人映画美学校/協力：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者： 15 名(＋映画史講座 1 名)

地域の映像文化施設、映画館（ミニシアター）、フィルム・アーカイブやシネマテーク、コミュニティシネマなどのディレクター、スタッフとして、地域の映像文化を担う人材を育成する「シネマ・マネジメント・ワークショップ」も 7 期目となった。今回はソーシャルビジネスとしての映画映像事業という視点を盛り込み、より充実した専門的なカリキュラムを構築した。2014 年度には講座の仕上げとして受講生自身の企画による上映会を開催する。

（2） 地域の映像文化事業マネジメント講座

① アートマネージメントワークショップ イン 東北

実施期間：2013 年 8 月～2014 年 3 月（企画立案～実施）

実施地域： 岩手（宮古、釜石）、宮城（石巻）、福島(南相馬)で実施

「シネマエール東北～東北に映画を届けよう！プロジェクト」での経験とネットワークを活かし、地域に根ざした映像文化事業を行う人材を育成するための事業を実施した。映画映像事業（イベント）のリサーチ～企画書予算書の作成～広報～イベントの実施といった一連の作業を、ワークショップとして行った。

宮古 「映像アート・マネージャー養成講座 in 宮古：みんなの上映会をつくろう！」

日時：2014 年 2 月 1 日、2 日、9 日、16 日　　会場：マリンコープ DORA、シネマリーン 1

講師・協力者：大垣隆義（しんゆり映画祭市民スタッフ）工藤雅子（（株）チャイルド・フィルム）、櫛桁一則（みやこシネマリーン）、中村義洋（映画監督）、 岩崎ゆう子

参加者（育成対象者）：のべ 31 人/上映会 54 人

「映像アート・マネージャー養成講座 in 宮古：みんなの上映会をつくろう！」という事業を企画、参加者を募り、3 日間の講義、ワークショップを経て、2 月 16 日に、中村義洋監督を招いて、同監督の『ポテチ』『フィッシュストーリー』を上映する上映会を実施した。上映会には 50 人を越える来場者を迎えることができ、ワークショップ参加者も充実感を得ることができた。

釜石

プレスクール みんなで映画上映会・ワークショップをつくろう

日時：2013 年 8 月 24 日　 会場：みんなの家・かだって　 参加者：6 人

キッズ映画上映会

『ONE PIECE ワンピース THE MOVIE エピソード オブ チョッパー プラス冬に咲く、奇跡の桜』

日時：2013 年 10 月 6 日　 会場：青葉ビル研修室

ワークショップ参加者：6 人（上映会 参加者：36 人）

クリスマス・シネマパーティー『最強のふたり』

日時：2013 年 12 月 14 日 会場：みんなの家・かだって

ワークショップ参加者：6 人/上映会参加者：13 人

2012 年に活動をスタートした「釜石カルチャー・リサーチパーク」のメンバーらが参加して、10 月 6 日に「キッズ映画上映会」、12 月 14 日に「クリスマス・シネマパーティ」を実施した。 クリスマス・シネマパーティでは、上映会に合わせてクリスマス・メニューのケータリングも行い、来場者に喜んでもらうことができた。

石巻

映画茶話会＋事業ミーティング

日時：2013 年 11 月 29 日　会場：IRORI 石巻　参加者：5 人

クリスマス上映会『ミッドナイト・イン・パリ』上映会

日時：2013 年 12 月 15 日　会場：アイトピアホール　上映会上映会参加者：53 人

歌ってコマ撮る「石巻・手作り CM」ワークショップ～みんなで一緒に CM を作ってみよう！～

日時：2014 年 3 月 30 日　会場：IRORI 石巻

講師・協力者：原田博行 with SIESTA（石巻・手作り CM プロジェクト）

参加者：10 人

2012 年冬に活動をはじめた ISHINOMAKI 金曜映画館（ISHINOMAKI2.0 内）で、「映画茶話会」（11 月）、「クリスマス上映会」（12 月　上映作品『ミッドナイト・イン・パリ』）、「手作り CM ワークショップ」（3 月）を実施した。地域に根付いた活動とするため、様々な形で映画事業を実施。それぞれに異なる客層の来場者を迎えることができ、次年度以降の事業展開に手応えを感じることができた。

南相馬

『ASAHIZA～人間は、どこへいく』 エキストラツアー

日時：2013 年 9 月 22 日　会場：朝日座ほか

講師・協力者：藤井光、今村寿志、青山真也、岩崎ゆう子、立木祥一郎、櫛桁一則

参加者：5 人（朝日座を楽しむ会メンバー）（エキストラ撮影参加者：約 100 名）

『ASAHIZA～人間は、どこへいく』 特別上映会

日時：2014 年 3 月 19 日　会場：映画美学校試写室

講師・ゲスト：藤井光、高山明、五十嵐太郎　試写会参加者　約 100 人

南相馬では、福島県南相馬市にある築 90 年の劇場（映画館）「朝日座」をめぐるドキュメンタリー『ASAHIZA』の追加撮影のためのエキストラツアーの企画・実施と、完成版の特別上映会をワークショップとして実施した。エキストラツアーは、東京都内でもエキストラを募集し、観光バスツアーを仕立て、100 人を超える参加者を得ることができた。3 月には、完成版披露のための特別上映会を開催、シンポジウムも行い、約 100 名の来場者を得ることができた。一連の作業を通して街なかに残る「朝日座」を活用した文化事業の可能性を考えることになった。

②シンポジウム―映像を軸にクリエイティブなまちづくりを考える～　※全国コミュニティシネマ会議

日時：2013 年 9 月 6 日　会場：クリエート浜松

講師・ゲスト・協力者：西田司、立木祥一郎、樋口泰人、石橋秀彦、櫛桁一則、藤井光

このシンポジウムでは、被災地石巻でまちづくりに関わる建築家の西田司氏、青森を拠点にコミュニティビジネスを展開する立木祥一郎氏、「爆音映画祭」を各地で主催する樋口泰人氏、京都府豊岡市で閉館した映画館「豊劇」を復活させようとする石橋秀彦氏、三陸沿岸唯一の映画館「みやこシネマリーン」の櫛桁一則氏、南相馬でドキュメンタリー『ASAHIZA』を撮った藤井光氏を講師に迎え、アートを軸にしたまちづくりの可能性、新しい上映活動のあり方などを話し合った。

③映像教育プログラム～若年層の観客開拓プログラムの共同制作

開催期間：2013 年 9 月～3 月

このワークショップでは映画館、シネマテーク等に若い観客を呼び込むためのプログラムをワークショップ形式で構築した。

浜松　「ワークショップ：作品に即した広報宣伝戦略とは」 ※全国コミュニティシネマ会議

日時：2013 年 9 月 7 日　会場：クリエート浜松

北條誠人氏（ユーロスペース支配人）、中野香氏（川崎市アートセンター）、梶原俊幸氏（横浜ジャック＆ベティ支配人）、西川香奈子氏（配給会社・太秦）を講師に迎え、『楽隊のうさぎ』をモデルケースに、映画館（劇場）、配給会社、それぞれがどのような宣伝プランを立て、観客（とくに若い観客）に作品を届けるのかを、「公開宣伝会議」として、来場者とともに考え、ディスカッションを行った。

東京　「ワークショップ“子どもと映画”企画をつくる」

日時：2013 年 11 月 9 日　会場：映画美学校地下教室

出演者：星野諭、土肥悦子、工藤雅子、村上朗子、河本清順　参加者：27 人

幼児から高校生まで幅広い「子ども」を対象とした企画で既に実績のある映画関係者、子どもイベントの専門家を招き、講義を聞くとともに、実際に企画をつくるワークショップを行い、子どもたちに映画の魅力を伝え、楽しく映画を見る機会を作る方法を学んだ。

尾道　映画館に行こう！ワークショップ～高校生のための映画館@尾道 2013～

日時：2014 年 3 月 23 日　会場：シネマ尾道

上映作品：『ティファニーで朝食を』　ゲスト：部谷京子（映画美術監督）

上映会参加者：高校生 9 人（一般 91 名））

川崎　「放課後シアターvol.4」魂がうごく!アニメーション

日時：2014 年 3 月 26 日　会場：川崎市アートセンター

上映作品：

『マイブリッジの糸』+ NFB 作品集+ 山村浩二作品集（合計 9 本、63 分）『頭山』

ゲスト：山村浩二（映画監督）　上映会参加者：46 名

④デジタル時代のプログラム開発ワークショップ　あなたの劇場の「デジタル化」について話し合おう！

日時：2013 年 9 月 6 日（金）　会場：クリエート浜松　※全国コミュニティシネマ会議

講師：設楽光明（ホワイトライン）

ワークショップに先立ち、すでにデジタル化から数年を経た劇場、デジタル化したばかりの劇場、デジタル化をしようとしている劇場、デジタル化の目途が立たない劇場にアンケート調査を行い、それを元に、それぞれが現在抱えるデジタルシネマ機導入後のトラブル、導入にあたっての課題などについて話し合った。

専門家を招き、DCP の基礎知識に関するレクチャー、デジタル機器のトラブルとその解消方法についての報告を聞いた。

[2] 全国コミュニティシネマ会議 2013 イン　浜松　の開催

開催時期：2012 年 9 月 6 日（金）～7 日（土）

開催会場：静岡県浜松市「クリエート浜松」

今回の会議は、「映画を軸にクリエイティブなまちづくりを考える～コミュニティシネマのリノベーション！」をテーマに、浜松市で開催した。初日は、「コミュニティシネマのリノベーション！」」というテーマで基調報告と 4 つのプレゼンテーション、ディスカッションを行った。3.11 以後、ゼロからのまちづくりをスタートした石巻や宮古の事例、新しい映画上映の形や場についてのプレゼンテーションを聞き、映画、映画館という場所、映画を上映すること、の意味を話し合った。 また、2 日目は、映画祭、シネマテーク（Fシネマプロジェクト）、

シネマ・シンジケート・プロジェクトに分かれて分科会を実施した。

今回のコミュニティシネマ会議は、浜松の映画館「シネマイーラ」を中心に組織された「「楽隊のうさぎ」を映画にする会」が製作した『楽隊のうさぎ』の完成披露の意味もあり、出演者や協力者、関係者を迎えてプレミア上映会を開催、300 人をこえる浜松市民が来場した。関連のパネル・ディスカッション「コミュニティシネマと映画製作」やワークショップ「作品に即した広報宣伝戦略とは～『楽隊のうさぎ』をモデルケースに」も実施した。

［3］ ヨーロッパシネマ

フランス・パリに本部を置くヨーロッパシネマ（EUの映画を上映する映画館に対して支援を行うネットワーク組織）には、コミュニティシネマセンター会員館のうち15館がミニネットワークとして加盟している。このネットワークのとりまとめ、ヨーロッパシネマへのレポートの作成等を行い、ヨーロッパシネマから支援金を受け取ることができた。

ヨーロッパシネマ・ミニネットワーク加盟劇場：

広島　シネツイン本通り/シネツイン2　新天町（2013 年 12 月閉館）八丁座　/サロンシネマ

川崎アートセンター/神戸アートビレッジセンター/名古屋　シネマスコーレ/名演小劇場/名古屋シネマテーク桜坂劇場/大分　シネマ5/シネマ5ビズ/シアターキノ/シネマテークたかさき/シネマジャック＆ベティ

2. 自主事業

[1] シネマエール東北　東北に映画を届けよう！プロジェクト

2013 年 4 月～2014 年 3 月の 1 年間で、岩手、宮城、福島の沿岸部 22 の市町村で、99 回の上映会を開催、約 6250 人の観客を迎えることができた。（2011 年 6 月からの約 3 年間ではのべ約 500 回、約 2 万 2000 人） 2013 年度も、松竹株式会社、東宝株式会社、東映株式会社、角川書店から無償で作品（DVD）を提供していただくことができ、これらの作品を中心に、上映する会場の状況、参加者の年齢層や希望に応じて、いろいろな映画を上映することができた。また、2013 年度は、日本アカデミー賞協会の協力・支援を得て、第 36 回日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した 3 作品（『桐島部活やめるってよ』『おおかみこどもの雨と雪』『最強のふたり』）の上映も行うことができた。さらに、今年度もポケモン映画製作委員会「ピカチュウプロジェクト」によるポケモン最新作の上映に協力、『劇場版ポケットモンスター　ベストウイッシュ「神速のゲノセクト ミュウツー覚醒」』を 12 会場で上映、多くの子どもたちに喜んでもらうことができた。

3 年目となった「シネマエール東北」では、三陸沿岸部に新しい上映の拠点をつくること、地域の人たち自身が上映会を企画・運営に携わることにも力を注いだ。2012 年にはじまったふたつの上映「みやこほっこり映画祭」と「ISHINOMAKI 金曜映画館」は 2 年目を迎え、若いスタッフも育ち始めている。

シネマエール東北を契機に製作された、南相馬・原町区にある築 90 年の映画館“朝日座”をめぐるドキュメンタリー映画『ASAHIZA 人間は、どこへいく』が、2013 年秋に完成、山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映された。

活動を開始してから 2014 年 3 月末までに、170 件（個人、団体を含む）を越える方々から、約 800 万円の募金が寄せられている。継続的に募金をしてくださる映画館、映画祭もあり、2013 年末には協同組合俳優連合から、チャリティイベントで得られた収益から 160 万円をご寄附いただき、東京国際映画祭からも多くの募金が寄せられている。2013 年度も芸術文化振興基金、ニューヨークのジャパン・ソサエティから助成をいただくことができた。

共同開催、現地事務局・実施団体：

岩手県・みやこシネマリーン　宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台　福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク

共催：東日本映画上映協議会

作品提供：松竹株式会社、東宝株式会社、東映株式会社 ほか

特別協力：東京国際映画祭/財団法人日本映像国際振興協会（ユニジャパン）

支援：芸術文化振興基金、ジャパン・ソサエティなど

[2] シネマ・シンジケート プロジェクト

(1) 選定・推薦作品

＝シネマ・シンジケート、コミュニティシネマセンター加盟館で 40 館～50 館規模で上映

- **『ホーリー・モーターズ』** レオス・カラックス監督/ユーロスペース配給 4 月 6 日より順次公開
  全国 35 館にて上映　動員 27,000 人
- **『日本の悲劇』** 小林政広監督/太秦配給 8 月 31 日より全国順次公開
  全国 40 館にて上映　動員 15,100 人
- **『楽隊のうさぎ』** 鈴木卓爾監督/太秦・コミュニティシネマセンター配給 12 月 14 日より全国順次公開
  全国 45 館にて上映　動員 14,200 人

(2) 配給受託事業

＝シネマ・シンジケート、コミュニティシネマセンター加盟館で 10 館～20 館規模で上映

- **「フレンチ・フィーメイル・ニューウェーブ」** マーメイドフィルム配給 3 月 30 日より順次公開
  『グッバイ・ファーストラブ』、『スカイラブ』、『ベルヴィル・トーキョ』、フランス女性監督 3 人の新作
  全国 10 館にて上映　動員 2,000 人
- **『阿賀に生きる』** 佐藤真監督/太秦配給 1 月 26 日より全国順次公開
  全国 15 館にて上映　動員 2,000 人

(3)協力作品

「スクリーン・ビューティーズ」全3シリーズ クラシック作品のデジタル上映

第1弾 「オードリー・ヘップバーン」－ 9 月 28 日より順次公開

『パリの恋人』、『ティファニーで朝食』、『麗しのサブリナ』 全国 54 館にて上映 動員 32,100 人

第 2 段 「カトリーヌ・ドヌーヴ」―11 月 16 日より順次公開

『暗くなるまでこの恋を』、『恋のマノン』、『シェルブールの雨傘』 全国 42 館にて上映 動員 15,000 人

第 3 段 「ヒッチコックとブロンド・ビューティー」―2014 年 1 月 25 日より順次公開

『泥棒成金』、『めまい』、『マーニー』 全国 41 館にて上映 動員 15,000 人

(4)WOWOW 「旅する W 座」プロジェクト

WOWOW 主催 「旅する W 座」第 3 弾～第 5 弾―2013 年 12 月末まで

『イヤー・オブ・スネイク』－4 月 19 日～6 月 21 日 5 会場

会場：シネマテークたかさき、進富座、パルシネマしんこうえん、シネモンド、本渡第一映劇

『恋のベビーカー大作戦』－7 月 5 日～9 月 27 日 6 会場

会場：シネマスコーレ、シネマルナティック、シネ・ヌーヴォ、シアターシエマ、みやこシネマリーン、シネマ e_ra

『シャンボンの背中』－10 月 4 日～12 月 20 日 6 会場

会場：テアトル石和、下関シアターゼロ、TKP シアター柏、京都シネマ、KBC シネマ、ユーロスペース

[3] シネマテーク・プロジェクト

シネマテーク・プロジェクトでは、映画の新しい可能性を開くデジタル化に対応すると同時に、フィルムでの上映環境を保持していくための「F シネマ・プロジェクト」を立ち上げた。2013 年度は、全国コミュニティシネマ会議の分科会でディスカッションを行った。また、東京国立近代美術館フィルムセンターと連携して、同センターが復元した珠玉の日本映画コレクションのパッケージの巡回をスタートし、海外のフィルム・アーカイブ（ニューヨーク近代美術館 MOMA）が復元した作品のパッケージの巡回についてリサーチ等、準備を行った。

(1)「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

フィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作を、35 ミリプリントで巡回した。

巡回会場：広島市映像文化ライブラリー／川崎市市民ミュージアム

1 **忠次旅日記**［デジタル復元・再染色版］1927 年 監督：伊藤大輔

2 **サイレント・アンソロジー**

斬人斬馬剣［デジタル復元版］監督：伊藤大輔 /**和製喧嘩友達**［デジタル復元版］監督：小津安二郎

長恨［デジタル復元版・再染色版］ 監督：伊藤大輔/**国士無双**［最長版・デジタル復元版］監督：伊丹万作

3 **瀧の白糸**［最長版・一部デジタル復元版］)1933 監督：溝口健二

4 **羅生門**［デジタル復元版］1950 監督：黒澤明

5 **地獄門**［デジタル復元版］1953 監督：衣笠貞之助

6 **新・平家物語**［デジタル復元版］1953 監督：溝口健二

7 **緑はるかに**［コニカラー復元］1953 監督：井上梅次

8 **幕末太陽傳**［デジタル復元版］1957 監督：川島雄三

9 **幸福**［シルバーカラー復元］1981 監督：市川崑

10 **短編集1**（13 作品・81 分） **東京行進曲** 1929 **黒ニャゴ**［デジタル復元版］1929 **くもとちゅうりっぷ**［デジタル復元版］1943 **KUJIRA くじら**［デジタル復元版］1953 **YUUREISEN[幽霊船]**［デジタル復元版］1956 年 ほか

11 **短編集2**（9作品・71 分） **紅葉狩**［デジタル復元版]1899 **銀輪**［デジタル復元版・三色分解光学合成］1956 ほか

(2) The MoMA フィルム・ベスト～ニューヨーク近代美術館映画コレクション

国際的に最も重要なフィルム・アーカイブである MoMA の復元作品をフィルムで巡回する「The MoMA フィルム・ベスト～ニューヨーク近代美術館映画コレクション」の準備を行った。

［4］ 映画の巡回/特集上映会の開催

（1）「特集：ポルトガル映画の巨匠たち」―「熱波」（ミゲル・ゴメス監督作品） 公開記念

2013 年 7 月 13 日（土）～19 日（金） 共催：ユーロスペース、アテネ・フランセ文化センター

現代ポルトガル映画を牽引するミゲル・ゴメス監督の『熱波』（2012）の劇場公開を記念し、日本初公開となるゴメス監督長編第 1 作『自分に見合った顔』、2010 年のポルトガル映画祭で上映された『私たちの好きな八月』を含めた 8 作品の上映を行った。1805 人（1 回平均 86 人）の来場者を迎えることができた。

（2） その他の巡回作品、所蔵フィルムの巡回など

コミュニティシネマ賞受賞作品『ビラルの世界』、『おだやかな日常』、このほか、当センターが保有するワイズマン監督作品、配給委託作品等の貸出を行った。

［5］ コミュニティシネマ賞の授賞/特別上映会の開催

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 で、エラ・プリーセ監督『何があったのか、知りたい、知ってほしい』に対してコミュニティシネマ賞を授賞した。また、同監督を招き、3 月末～4 月初めに特別上映会を、東京（ユーロスペース）、松本（松本シネマセレクト）、高崎（高崎映画祭）、名古屋（名古屋シネマテーク）で開催、いずれの会場でも多くの観客を迎え好評を得ることができた。

［6］ その他の事業

地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイス、ウェブサイトの運営、会員制度の充実など

ウェブサイトの改編作業を進めるなど、会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかった。